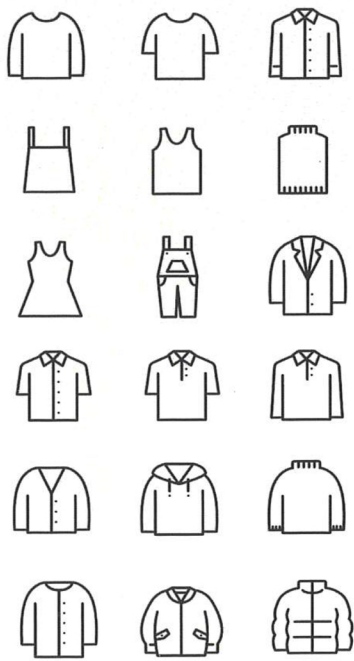


断捨離は 捨てないで



「捨てる」から「捨てなくなる」
思考が逆転するECOマインドセット

「**いらぬ服は、捨てる**」
を変えらるまで…
ドヤツエ

頭を捻りながら、いつものようにスマホで検索窓に入力していく。
ふふふ…【古着】

すると、検索ワードの下に何やら興味深い言葉が目に入ってきた。

【古着のワクチン】

ん？なんだこれ。聞いたことないぞ。
クリックしさらに奥へと進んでみると……

「専用の袋に古着を詰めて送り返すとワクチン5本寄付される」

どうやらそういう仕組みのようだ。

これはすごい！現物での寄付という点、渡したら終わり。

金銭での寄付もそう。使い道が不透明な部分はどうしても出てくる。

しかしこの「古着のワクチン」は、袋の購入代金でワクチンを購入し、途上国へと送り届けるという。発送用の資材やワクチン・送料として三千元の費用がかかるが、部屋がきれいになり尚且つ誰かの役に立つ。

三千元でここまで出来る。人によってはこの金額は高いと思うかもしれない。もちろん一人が服を捨てるだけなら簡単だし、お金はかからない。でも、服をゴミとして焼却・廃棄するのは莫大な資金がかかる。合わせて環境への負荷も考えなければならぬ。

目の前の服がなくなれば、一人の負担は減る。しかし、その服たちの処理はどこかで負担をしないといけない。その負担を、わずかでもいいから減らしたい。

そのために色々考えてきたんだ。たとえば、一人にできることがわずかでも……
思考を巡らせていく。

金銭だけの寄付というのは何となく敬遠しがちだが、「古着のワクチン」という選択は金銭だけでなく、もう着なくなった衣服でも役に立てることが出来る。

1回の捨てない行動が2倍の効果になる。言い方を変えれば一石二鳥だ。

「古着のワクチン」は「面倒くさい」行為を社会貢献に変える。
よし。考えがまとまった。

「じゃあ……せうかくだし、やってみようかな……」
スマホを操作する指に迷いはもうなかった。

親指で「注文」をクリック。

「届くのが楽しみだ……」

後日、注文した古着発送キットが到着。大きさはA4、厚みは約2.5センチほどの小さな段ボールに入ってやってきた。

「こんな小さな箱に袋が……」

封を開け中の袋を取り出して広げてみると、想像を遙かに超えた大きさの袋と対面。

「ここに服を入れていくのか……」

発送用の袋は、A4大の小さな箱で届きます。
中から出てきた袋を広げると、
とてつもなく大きな袋でした。



先ほどの40枚の服を丁寧にに入れていく。

「これが……この行為がワクチンに変わる……」

資材と一緒に入っていたパンフレットを眺める。そこにはワクチンを通した皆さんの笑顔が映し出されていた。より一層実感が湧いてくる。

寄付された古着はカンボジアの店舗で再販され、そこは障害のある方やストリートチルドレンだった若者の働く場となっているという。いらぬ服が現地の雇用を産むお手伝いをしてるのだ。

「3000円でこんなにもたくさんできることがあるんだ……」

胸にこみあげてきたのは、暗闇をボツと照らすような優しい気持ち。小さな小さな充実感。顔も知らない誰かの役に立っているという満足感。

数々の捨てない選択。それは単純に

「知っているか」「知らないか」

「やるか」「やらないか」

これだけの違いかもしれない。

しかしもう現実を知ってしまった。知ってしまったら、やろう。これからも。ずっと……
心の中でつぶやきながら、ガムテープで十字に止め、そとと封をする。

送られてきた袋の他に、現地の様子を説明するパンフレットが入っています。寄付の実感が湧いてきます。

そして実際に古着を袋に入れてみると、40枚がすっぽり入ってしまいました。すごい容量ですね。



40枚の服が入った袋。彼らとの別れの時が近づいている。

何も考えなければ、いつものように捨てていただろう。でも今は違う。

ただ「捨てる」を選んだだけで、小さな社会貢献になると気づけたんだ。

それに、またあの声も聞こえてくる……

「捨てないでくれて、ありがとう」

彼らも誰かのもとに行くことを喜んでいる。

そう思っているはずだから……